

株主の皆さまへ

2020年3月期(第120期)

バルカーレポート

2019年4月1日 ▶▶ 2020年3月31日

VALUE & QUALITY

基本理念

VALUE
&
QUALITY

(価値の創造と品質の向上)

4つの
経営理念

- ・ 社会の発展のために
- ・ 正正堂堂と
- ・ 世界中のステークホルダーへ
- ・ 独創的技術で

行動指針
10項

- 1 事業を通じた社会への貢献
- 2 顧客感動の提供
- 3 人格と個性の尊重
- 4 株主との信頼関係の構築
- 5 地域社会との共生
- 6 安全衛生は全てに優先
- 7 コンプライアンス遵守と誠実な行動
- 8 環境にやさしいモノづくり
- 9 資産の保全と有効活用
- 10 チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり

VALUE & QUALITY

価値の創造と品質の向上

ごあいさつ

株主の皆さまに2020年3月期（第120期）バルカーレポートをお届けします。

当期の日本経済は、第3四半期まではグローバル経済全般の停滞や設備投資の減速による影響に加え、各地の地政学的リスクへの警戒感が高まったこと等を反映して、生産と輸出の水準は低下傾向を示しました。また個人消費についても、消費増税の影響があり停滞が続く状況となりました。

さらに、第4四半期に入り、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により企業の生産活動と個人消費は大きな影響を受け、景況はさらに悪化しました。

このような事業環境下において当社グループは、環境変化への対応力の強化を図るとともに、第8次中期経営計画“New Valqua Stage Eight (NV・S8)”で掲げた戦略に沿って、“健全で持続的な成長”を実現するための企業基盤の整備・強化を推進いたしました。

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症とそれに影響を受ける社会活動により、当社グループにとりましても非常に厳しい事業環境となることが予想されます。

そのようななか当社グループは、新中期経営計画“New Frontier 2022 (NF2022)”のもと、足許の収益維持に努めるとともに、“未来と未知に挑むチャレンジングな企業”として新型コロナウイルス感染症収束後の経済活動回復への貢献を強く意識し、当社グループの、そして地球全体の価値創造に向けた活動を続けてまいります。

2020年6月



シール製品
事業売上高 **32,071** 百万円売上高
構成比 **66.5** %事業
概況

シール製品事業は、先端産業市場・機器市場・プラント市場の各市場に向けた販売がそれぞれ減少し、売上高は320億7千1百万円（前年同期比4.5%減）、セグメント利益は33億6千万円（同24.5%減）となりました。

今後の
展開

バルカーグループのコア事業として、グローバルな成長市場に向けての展開を加速するとともに、選択と集中を推進することにより、収益力の強化を図ってまいります。

機能樹脂製品
事業売上高 **13,089** 百万円売上高
構成比 **27.2** %事業
概況

機能樹脂製品事業は、プラント市場向けが拡大したものの、先端産業市場・機器市場向け販売の減少により、売上高は130億8千9百万円（前年同期比8.6%減）、セグメント利益は5億5千4百万円（同28.7%減）となりました。

今後の
展開

サプライチェーンの整備や新たな技術の獲得に向けて、M&Aも含めた成長投資を積極的に行い、業容の拡大と収益性の向上を図ってまいります。

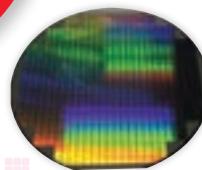
事業
概況

その他事業は、シリコンウエハーリサイクル事業の受託量が減少し、売上高30億5千1百万円（前年同期比8.5%減）、セグメント利益は2億9千9百万円（前年同期比22.1%減）となりました。

今後の
展開

シリコンウエハーリサイクル事業における収益力の強化に加え、H&S（ハード&シールエンジニアリング・サービス）事業の業績化を速やかに図り、新たな価値創造を具現化してまいります。

連結売上高
48,212
百万円

その他
事業売上高 **3,051** 百万円売上高
構成比 **6.3** %

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結損益計算書

単位：百万円

科目	前期	当期
	自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日	自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日
売上高	51,243	48,212
売上原価	32,149	30,237
売上総利益	19,093	17,974
販売費及び一般管理費	13,484	13,760
営業利益	5,609	4,214
経常利益	5,791	4,256
税金等調整前当期純利益	5,733	4,270
当期純利益	4,182	2,996
親会社株主に帰属する当期純利益	4,087	2,918

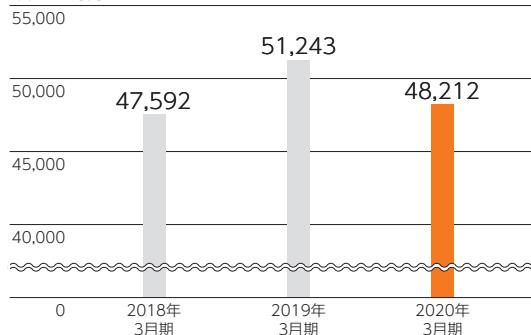
連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前期末	当期末
	2019年3月31日	2020年3月31日
資産の部		
流動資産	28,166	26,811
固定資産	21,363	21,317
繰延資産	5	—
資産合計	49,535	48,128
負債の部		
流動負債	13,261	10,517
固定負債	1,895	2,680
負債合計	15,157	13,197
純資産の部		
株主資本	31,610	32,843
その他の包括利益累計額	1,205	490
非支配株主持分	1,562	1,596
純資産合計	34,378	34,930
負債純資産合計	49,535	48,128

売上高

単位：百万円



営業利益 / 営業利益率

単位：百万円

単位：%



配当

	中間	期末	年間配当
2018年3月期	40.0 円	45.0 円	85.0 円
2019年3月期	45.0 円	50.0 円	95.0 円
2020年3月期	50.0 円	50.0 円	100.0 円

生産ラインの効率性と安全性の向上に貢献 油圧シリンダー用ゴムシール寿命予知システム、開発完了

バルカーでは、従来のモノづくりの枠にとらわれず、バルカーの持つあらゆる資産“モノ・コト・ヒト”を駆使してお客さまの課題をともに解決していく、H&Sコンセプト（ハード&シール・エンジニアリング・サービス）の具体化に向けた取り組みを推進しています。

シールが使用される代表的な部品のひとつに油圧シリンダーがあり、それは“モノをつくるための機械”である各種産業機械に組み込まれて世界中で活躍しています。

油圧シリンダーは使用される環境もさまざまです。それがゆえに内部に組み込まれるシールの適正交換時期の把握が困難であり、寿命を超えたシールの使用によるトラブルの発生が問題となっていました。

バルカーはこの解決に向けて“油圧シリンダー用ゴムシール寿命予知システム”を開発、お客さまへの提供を開始しました。

当システムは、バルカーが創業来培ってきたシール・エンジニアリング技術にIoTの要素を組み合わせたもので、それぞれの現場で異なるゴムシールの寿命を予知するために、シール機構部分を専用に設計・製作し、それをを用いてさまざまな使用状況における変化等を検出します。

これによりお客さまは、油圧シリンダーの適正なメンテナンス間隔の把握と計画的な補修が可能となり、生産ライン全体の効率性と安全性を向上させることができるようになります。

バルカーは、これからもH&Sコンセプトに基づいたシステムやサービスを次々と形にし、お客さまが抱える課題、そして見えざる問題の解決をしていきます。



確かな品質と性能で“産業のコメ”の生産を支える 高機能シール製品第3製造拠点、操業開始

2020年2月、中国・上海に設置された半導体製造装置用高機能シール製品の生産ラインが本格稼働し、アジア各国のメモリーなどの半導体工場に向けて出荷を開始しました。

バルカー社内のみならず、お客さまからの期待も大きいこの生産拠点、新設した目的は主に2つあります。それらは、“成長市場・地域に向けた供給能力の拡大”と“事業継続性の向上”です。

半導体製造装置は技術の最先端を行く精密機器であり、その性能は既に「神の領域にある」とも言われており、そこで用いられる各種部品の品質には高い水準が要求されます。

高機能シール製品をはじめとするバルカーの製品は、その確かな品質に加え、一步先を見据えた機能が国内外のメーカーに認められ、既に多くの半導体製造装置の部品に採用されています。

“産業のコメ”とも言われる半導体、もはや私たちの生活はそれ無くしては成り立ちません。バルカーはこれからも確かな品質と性能を追い求め、そしてそれらの安定的な供給を通じて“産業のコメづくり”を支えていきます。



新生産ラインが入る建屋。ここから新たな価値を提供します

供給能力拡大の背景

バルカーは、「景気変動の影響は受けるものの、世界の半導体生産量は将来に亘り成長する」との見通しのもと、半導体製造装置用高機能シール製品のグローバルサプライチェーン強化を進めてきました。

なかでも「中国は将来の半導体生産の中心地になる」と早い段階から予想し、収益拡大に向けた長期的な戦略の検討を行ってきました。今回の設置はその具体化のひとつとなります。

中国に生産拠点を設置する利点は、大きな需要先に近いことだけではありません。

バルカーが既に保有している生産拠点のスペースを有効活用できること、中国政府が国産部材の使用を積極的に推進していること、生産と開発を支える人的資源の確保と育成が比較的容易であること、これらも拠点設置を決めた要素となりました。

事業継続性向上の背景

半導体製造装置は、使用者である半導体メーカーから品質はもちろん、安定的な稼働を高いレベルで求められます。

それに対応するため、半導体製造装置メーカーは部品メーカー各社への重要な評価基準のひとつとして、事業継続性の向上、すなわち自然災害やカントリーリスクを意識した体制の整備を挙げています。

バルカーは、そのような半導体製造装置メーカーの要請を踏まえ、高機能シール製品を日本と韓国の2拠点で分散生産することにより安定的な製品供給を実現し、お客さまから高い評価を得てきました。

しかしここ数年、世界的な地政学的リスクと日本における台風などの自然災害リスクが大きくなるなか、生産体制のさらなる強化の必要性が高まってきました。

会社の概況 (2020年3月31日現在)

社名	株式会社バルカー (英文表記 VALQUA, LTD.)
創業	1927年1月21日
設立	1932年4月8日
資本金	13,957百万円
発行済株式総数	18,688,733株
株主総数	9,482名
従業員数	438名 (連結 1,876名)

役員 (2020年6月18日現在)

取締役

代表取締役会長 CEO	瀧澤 利一
代表取締役社長 COO	本坊 吉博
取締役 上席専務執行役員 CCO	黒川 清敬
取締役 専務執行役員 CTO 兼 CQO	青木 睦郎
取締役 (社外)	関 忠行
取締役 (社外)	三木 緑
取締役 (社外)	関根 近子

監査役

常勤監査役	高 昭夫
監査役 (社外)	八戸 孝彦
監査役 (社外)	高橋 秀法

CEO：最高経営責任者
COO：最高執行責任者
CCO：最高コンプライアンス責任者
CTO：最高技術責任者
CQO：最高品質責任者

執行役員

専務執行役員	浜田 浩
専務執行役員	小林 健一
常務執行役員	森田 信利
常務執行役員	櫻井 慎也
常務執行役員	椿山 善昭
常務執行役員	瀧澤 利治
執行役員	小川 禎
執行役員	谷田部 麻美子
執行役員	立田 寛
執行役員	伏屋 克俊
執行役員	植木 聡
執行役員	古澤 実
執行役員	藤下 尚彦
執行役員	野邊 淳嗣

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人
および特別口座
口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所
(郵便物送付先)
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

(ホームページ) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告方法 電子公告
<http://www.valqua.co.jp/ir/koukoku.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由により
電子公告によることができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部



〒141-6024
東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower24階
TEL：03-5434-7370 FAX：03-5436-0560
URL：<http://www.valqua.co.jp/>



※ この報告書は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。
見やすく読みましがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。